

## マルウェアによるファイルの不正変更を保護する

2017/12/17 現在

Windows 10 バージョン 1709 になり新たな機能が加わりました。その一つは「コントロールされたフォルダーアクセス」です。

従来、脆弱性を緩和するしくみとして追加インストールする EMET(Enhanced Mitigation Experience Toolkit)がありましたが、その開発を終了し、OS の一部となる Windows Defender Exploitation Guard に統合しています。その一環として「コントロールされたフォルダーアクセス」が Windows Defender セキュリティ センターに追加されました。

「コントロールされたフォルダーアクセス」は、ファイルシステムを暗号化してユーザーに身代金を要求するランサムウェアなど、マルウェアによるファイルやフォルダーの変更を抑止する機能です。既定では無効になっていますが、以下の手順で有効化できます。

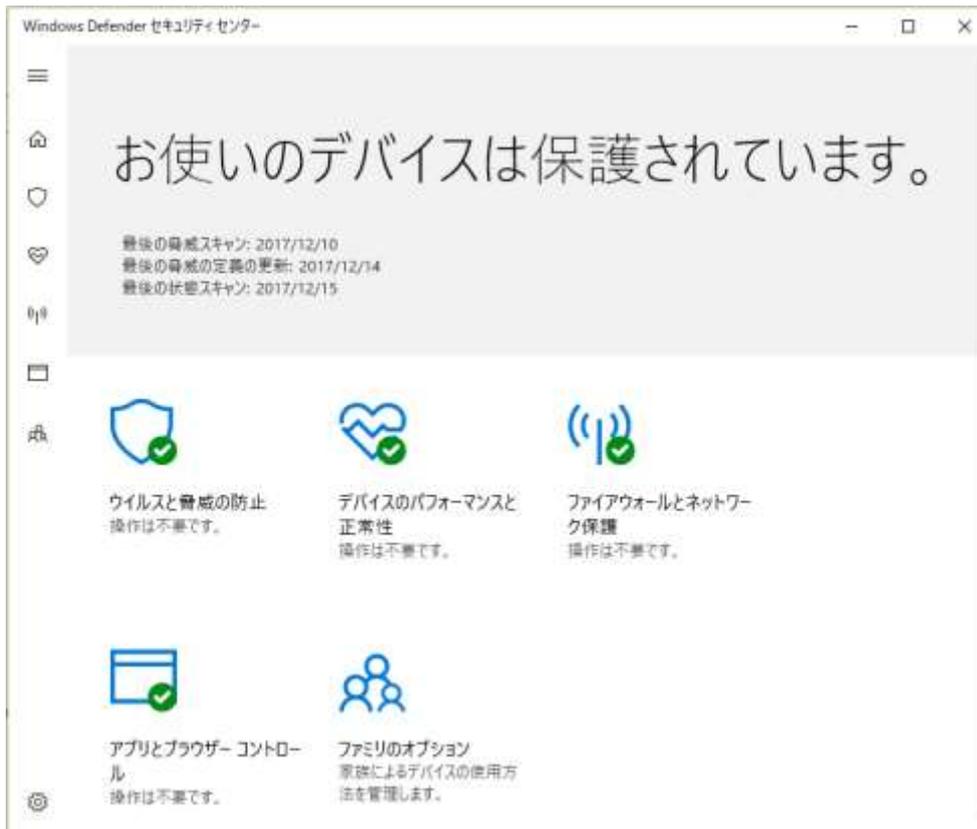
### 注意：

「Windows Defender」以外のウイルス対策ソフトをインストールしている場合、「コントロールされたフォルダーアクセス」を含む「ウイルスと脅威の防止」機能は自動的に無効になります。したがって「コントロールされたフォルダーアクセス」を「オン」にできません。

「Windows Defender」以外のウイルス対策ソフトが実績のあるメーカーのものなら、大きな問題となっている「ランサムウェア」対策は追加されているはずなので、無理に「Windows Defender」に切り替える必要はありません。

### Windows Defender セキュリティ センターを開く

1. 「スタート」ボタン⇒「設定」⇒「更新とセキュリティ」⇒左の一覧の「Windows Defender」で開いた画面の中央「Windows Defender」の見出しの下の「Windows Defender セキュリティ センターを開きます」ボタンをクリックする。
2. 「スタート」ボタン⇒「すべてのアプリ」の W までスクロールし「Windows Defender セキュリティセンター」をクリックする。
3. タスクバーの右の通知領域に Windows Defender notification アイコン  があれば、それをクリック、なければ通知領域の山形をクリックして同じアイコンをクリックする。
4. 検索ボックスに「Windows Defender」と入力し、検索結果の「Windows Defender セキュリティセンター」をクリックする。



「コントロールされたフォルダーアクセス」を有効（オン）にする  
「ウイルスと脅威の防止」をクリックする。



「ウイルスと脅威の防止設定」をクリックする。



下へスクロールする。



「コントロールされたフォルダー アクセス」の下のスイッチをクリックして「オン」にする。

「このアプリがデバイスに変更を加えることを許可しますか」のボックスが表示されるので「はい」をクリックする。



以上で設定が終わります。

これでファイルが不正に変更されないようになります。